岩盤ボーリング柱状図

調査名　一級河川　太田川水系　東福田４支外　砂防激甚災害対策特別緊急事業に伴う業務委託

事業・工事名

調査目的及び調査対象　砂防　ダム・溜池

ボーリング名	東福田6支隣Bor.5	調査位置	東福田6支隣 NO.-1-0.640　L-0.90m	北緯	34° 26′ 39.8197″
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	令和3年 1月12日～ 令和3年 1月13日	東経	132° 32′ 37.6596″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 168.46m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	6.00m	地盤勾配	12° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：D-0B（東邦地下工機） エンジン：ヤンマー NFAD8　ポンプ：BG-3B（東邦地下工機）

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 (cm) / RQD (%)	記事	孔内水位／測定月日
1	166.56	1.90	S-6	礫混じり砂	褐	w5	h4	E	VI	d	D	3[0] {100}	砂分は中～粗砂が主体。 φ5～30mmの亜角礫を5～10%混入する。所により礫が密となる箇所を挟む。 含水量多く、孔壁の崩壊性高い。	0.35
2	164.46	4.00	Gr	風化花崗岩	白灰	w4	h1	D	VI	d	DM	4[0] {100}	（中粒黒雲母花崗岩） コア形を残して採取できるが全体に弱風化し、ハンマーの軽打で砂～礫状に砕ける。 DM級岩盤に区分出来る。	
3	162.46	6.00	Gr	風化花崗岩	白灰	w4	h1	C	IV	c	DH	10[10] {100}	コアは短柱状～一部岩片状で採取できるが全体に弱風化し、ハンマーの軽打で礫状に砕ける。 ハンマー打で濁音を発する。 GL-5.7m付近、亀裂面に酸化色が見られる。 DH～CL級岩盤に分類出来る。	

標準貫入試験

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
10	1.15	10		
	1.45	300		
50以上	2.00	50	90	
	2.09	90		
50以上	3.00	50	70	
	3.07	70		
50以上	4.00	50	50	
	4.05	50		
50以上	5.00	50	20	
	5.02	20		
50以上	6.00	50	0	
		0		

原位置試験　室内試験

削孔状況

削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
1/12	200	66／ケーシング	シングル/NQ	350	50	0	W1/0	0
	120		シングル/NQ	350	50	0	W1/0	0
	200		ダブル/DC	150	150	4	W3/10	9
	150		ダブル/DC	150	150	4	W3/9	8
	150		ダブル/DC	200	150	4	W3/9	8
	200	66	ダブル/DC	150	150	4	W3/9	8
1/13	130		ダブル/DC	300	150	4	W3/9	8